

平成22年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査が実施されました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。佐賀県では、抽出校だけでなく県内全小学校で6年生を対象に実施されました。

その結果について、本校児童の学力の傾向を分析しました。今回の調査は6年生ですが、分析結果を基に全校児童の学力向上について対応策をまとめました。その概要について、お知らせいたします。今後、対応策を基に授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思っております。

■ 調査期日

平成22年4月20日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

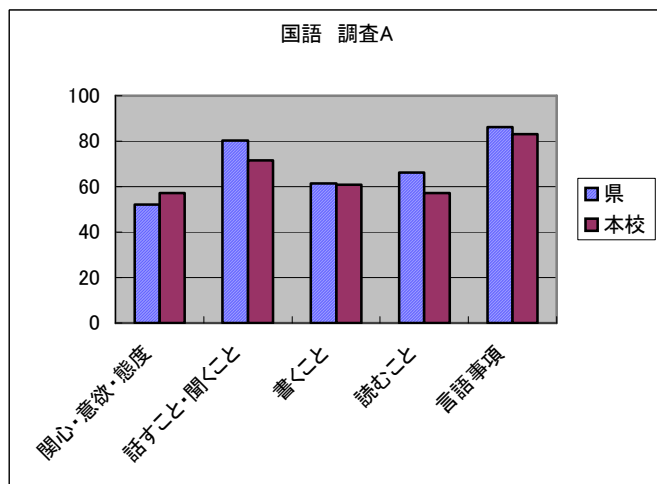
■ 学力調査(全体の傾向)について

1 国語について

(1) 総括

- 調査A（主として知識に関する問題）の平均正答率は、県よりやや下回っています。
- 調査B（主として活用に関する問題）の平均正答率は、県とほぼ同レベルにあると考えられます。

(2) 調査Aについて



調査A(主として知識に関する問題)では、「関心・意欲・態度」の平均正答率が県平均を上回りましたが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で下回りました。

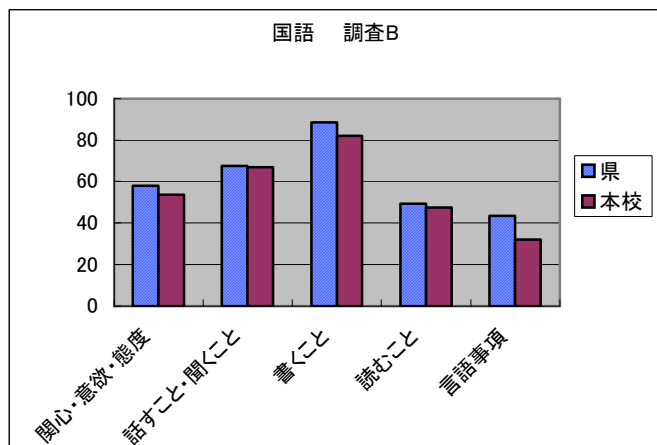
「話すこと・聞くこと」で低かったのは、「聞き手が理解しやすいように、話全体の構成を工夫すること」について問う問題でした。文章の構成をしっかりと考えさせ、話す内容や話し方の工夫について指導が必要です。

「読むこと」では、「登場人物を相互に関係づけて読むこと」や「説明文の内容を的確に押さえながら読むこと」が下回っています。登場人物の

関係をとらえさせたり、内容を要約したりしながら読みを深める指導が必要です。

「言語事項」(漢字を読む・書く)については、特に漢字を書く問題で無答率が高く、日常的に漢字を使うような学習や課題を仕組んでいくことが大切だと考えられます。

(3) 調査Bについて



調査B(主として活用に関する問題)では、いくつかの設問で県平均を上回りましたが、領域で見ると上回ることはできませんでした。

特に正答率が低かった問題は、「登場人物や場面の移り変わりに注意してあらすじを書くこと」「理由を明確にして説明する文を書くこと」でした。また、このような記述式の問題では、無答率が高くなりました。学習の中で、構成や展開に着目して作品を読むことに力を入れたいと思います。また、感じたり考えたりしたことをまとめながら読んだり、発表しあったりすることが重要で

す。

「聞くこと・話すこと」では、「聞き手を引きつける話し方の工夫に気づくこと」について正答率が低くなりました。話し方の工夫を具体的に指導することが大切です。今年度からスピーチタイムを設定し、全員が表現する場に取り組んでいます。スピーチの具体的な内容・方法・話し方などについて、検討していく必要があります。

(4) 学力向上のための指導・取り組み

【国語科の授業を通して】

- 『学び合い』学習を通して、考えを伝え合う場を積極的に設けます。また、話す時の技法（間、声の大きさ、問いかけ、頭括・尾括等）を意識させていきます。《話すこと・聞くこと》
- 読解指導では、物語の登場人物の関係を捉えさせたり、文章の構成や展開を考えさせたりしながら、じっくり読む力を育てます。また、読み取った内容を要約したり意見を発表しあったりする場を設け、読みを深めさせます。《読むこと》
- 書く活動を多く設けます。その際、習得語彙や習った漢字を使うこと、段落構成を考えた記述や表現の工夫を意識してできるようにさせます。また、字数を制限したり理由を書かせたり、条件に合わせて書く力をつけていきます。《書くこと》
- 教材の関連読書を進めていきます。（同一著者、類似テーマ等）《読むこと》

【モジュール学習・スピーチタイムを通して】

- 音読によって様々な文種や言葉にふれ、語彙の幅を広げさせます。《言語事項》
- 「スピーチタイム」ではスピーチの内容や方法を検討しながら、全員が話す場面を作り、話すこと・聞くことに慣れさせていきます。
- 1学期中に漢字前倒し指導を行い、11月までに習得率80%、3月は習得率90%を目指します。また12月からは関連熟語へと範囲を広げます。《言語事項》

【日々の活動の中で・教科の枠を越えて】

- 学習の中に、自分の意見・考えを書く活動を多く取り入れます。《書くこと》
- 学年に応じた本を集中して読むことを習慣づけます。（読書50選の活用）《読むこと》
- 全教科で、問題文をじっくり読む、最後まで諦めず問題に取り組むことを徹底指導します。《意欲》



【ご家庭では】

学校での取り組みを定着させるためには、ご家庭での協力が必要です。以下のことについて、今後連携しながら進めていきましょう。

- 家族で会話をたくさんかわしましょう。子どもの話を横取りせず、最後（語尾）まで話させ、共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流したり、子どもとの会話を楽しみましょう。
- 子どもが話すときは、言葉を意識して聞くように心がけ、丁寧に聞く姿勢を持ちましょう。また、子どもにも、話は最後まで聞くようにしつけましょう。
- 本があふれる（読書）環境づくりに努めましょう。年齢（実態）に応じて、読書や身近な読み物（新聞など）に関心を持たせましょう。（読み語りはいくつになってもたいせつです）
 - ・ 低学年…子どもの好きな本をたくさん読み聞かせる
 - ・ 中学年…親子で同じ本を読み、会話のきっかけにする
 - ・ 高学年…手に取れる場所に興味のあるような本を置いてみる、など
 - ・ 家族で読書の時間を持ったり、読んだ本について、話ができたりするといいですね。
- 家庭学習の手引きを配布します。学習時間や内容について目安を示していますので、参考にしながら、自分で決めて学習できるように励ましましょう。
（例）意味調べ、視写と書き込み、本や新聞記事を読んだ感想、習った言葉を使っの短文作り、テーマ日記など